

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第2号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

平成17年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成17年11月7日
熊本県病害虫防除所長

1 病害虫名：タバココナジラミ バイオタイプQ
Bemisia tabaci Q-biotype

2 発生植物：トマト、ミニトマト、メロン

3 発生確認の経過

平成17年2月、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 上田重文氏によりタバココナジラミのバイオタイプQの発生が国内で初めて報告され、県内から採集した個体群にもバイオタイプQが認められた。

平成17年8～10月、上田氏の方法に準じたPCR法を用いて、県内より採集した個体群のバイオタイプを病害虫防除所で調査した結果、バイオタイプQが確認された。国内では他に宮崎県で確認されている。

（参考）

海外ではタバココナジラミの多数のバイオタイプが存在している。国内では、従来から発生していた在来系統（バイオタイプ不明）、89年頃に侵入したバイオタイプBが発生している。94年にバイオタイプBを別種であるとし、シルバーリーフコナジラミとした。したがって、バイオタイプBとシルバーリーフコナジラミは同一である。

4 形態

シルバーリーフコナジラミと形態上の差異は、成虫、幼虫ともに確認されていない。形態によるシルバーリーフコナジラミとの区別は、現時点ではできない。

5 生態

- 1) スペイン、イタリア、中国などで発生しているが、詳細な生態は不明である。
- 2) 宮崎県病害虫防除・肥料検査センターの試験では、シルバーリーフコナジラミとの交雑は認められていない（未発表）。
- 3) シルバーリーフコナジラミの特徴としてカボチャ葉の白化症発現が認められるが、当所においてバイオタイプQを用いた発現試験を行い、発現能力はないか、低いと考えられた（未発表）。

6 寄主植物

県内では、トマト、ミニトマト、メロンで確認している（表1）。宮崎県では、ピーマン、シトウ、ナス、キュウリ、オオバ、サツマイモにおいても確認されている。

7 トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) の媒介の有無

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所において、タバココナジラミ バイオタイプQによるTYLCVの媒介が確認されている。

8 薬剤感受性

シルバーリーフコナジラミと比較すると、ピリプロキシフェン剤、合成ピレスロイド系、一部のネオニコチノイド系等の薬剤に対して感受性が低い。

平成17年3月16日付け技術情報第9号(シルバーリーフコナジラミ成虫の薬剤感受性検定結果 <http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>)における熊研メロン個体群は、タバココナジラミ バイオタイプQに訂正する。感受性個体群はシルバーリーフコナジラミである。

9 被害の特徴

シルバーリーフコナジラミと同様と考えられ、TYLCV等の媒介、成幼虫の吸汁による生育障害、成幼虫の分泌物に発生するすす病による葉、果実等の汚れが問題となる。

10 防除対策

- 1) 薬剤感受性が低いため、利用可能な物理的防除法(防虫ネット、UVカットフィルム、反射資材等)を中心とした総合的防除対策を行う。なお、本種に対して使用できる農薬は、コナジラミ類またはタバココナジラミに登録のある薬剤となる。
- 2) 登録薬剤が少ないため、同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性を発達させる恐れがある。できる限り農薬以外の防除対策を実施する。
- 3) 農薬は登録のあるものを使用し、ラベル等で使用方法を確認して収穫前使用日数、使用回数、希釈倍数及び使用量等を守って安全使用に努める。

表1 県内より採集したタバココナジラミのバイオタイプ別成虫数

採集日	平成16年11月15日	平成17年6月9日	平成17年10月13日	平成17年7月1日	平成17年5月31日
採集地点	合志町栄	熊本市中島	熊本市太郎迫	玉名市伊倉	八代市水島町
採集作物	メロン (アールセイヌ秋冬)	メロン (肥後グリーン)	メロン (アールス雅302)	ミニトマト (千果)	トマト (ハウス桃太郎)
供試虫数	10	10	5	11	10
シルバーリーフコナジラミ (バイオタイプB)	0	0	0	0	0
バイオタイプQ	10	10	5	11	10

PCR法を用いて、バンドパターンよりバイオタイプを識別した。

採集後、キャベツを用いて累代飼育を行い、平成17年8~10月にPCR法で識別を行った。

特殊報は、病害虫防除所のホームページ(<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>)に公開している。